学校教育実践コース（家政）・生活環境コース　　子ども・家族福祉

家庭科教育と保育士科目としての位置づけ

家政教育・金子 省子

１．授業科目の概要

家政教育専修及び生活環境コースの選択科目である.家庭科教員免許状の選択科目であり,保育士資格の「保育の本質・目的の理解に関する科目」群の必修科目である. 授業の目的は「児童を取り巻く環境の現状をふまえ,児童福祉の理念,制度,方法,諸領域に関する課題について理解する」である.

受講生は,生活環境コース 3 回生 13 名,同 4 回生 3 名, スポーツ健康 4 回生 1 名,学校教育教員養成課程 3 回生 10 名だった. 学校教育教員養成課程の内訳は家政教育 2 名, 保育士養成コース 8 名だった.

授業形態は,講義が中心である. 教科書を使用し,ほぼ毎回の授業概要のレジュメ及び関連する資料を配布,一部パワーポイントを用いた. 児童相談所や児童虐待に関するビデオを使用した. このほか,グループごとにディスカッションをする時間を複数回設けた. 授業時間外学習として,地域の保育・子育て支援についての情報収集などを課した. また,教科書の該当箇所の予習・復習や児童虐待,子ども・子育て支援新制度等に関する厚労省サイトの閲覧を促した. 評価は,第 5 回で理念・法制度・実施体制についての確認テストを行い知識の定着を確認し, 第 15 回で最終試験を実施して, 各回の提出物を含め評価した.

現在は,総合人間形成課程の学生数が上回り免許を取得しない学生も多い. テキストは保育士養成用を用いているが,今後教員養成課程と保育士コース学生への対応となり保育の領域にどの程度の時間を割くかなど更に検討が必要になると考える. 今回は保育士コースとそれ以外の学生に分けての分析をおこなった.

２．授業アンケートの結果に基づく分析

（１）授業の DP アンケート結果

主として学部 DP１（知識・理解）に関する科目として,次の 4 点についての知識・理解に関して到達目標を掲げている. 1.児童問題・児童福祉の歴史的展開,理念　2.法制度と実施体制　3.保育,児童養護,健全育成などの諸領域についての施策の現状・課題　4.児童の権利条約の視点から捉えた児童福祉の課題

DP アンケートの回答結果は学校教育教員養成課程も総合人間形成課程も 10 項目すべてに回答がみられ,おおむね肯定的であった. 講義の主なねらいとしている知識・理解では,学校教育教員養成課程の学生が１Ｂ：専門分野の知識について「とてもそう思う」7 名,「ある程度そう思う」1 名だった. １Ａ:教育に関する確かな知識について「とてもそう思う」2 名,「ある程度そう思う」が 6 名だった.

総合人間形成課程では１Ａ, １Ｂ, ２Ａ, ２Ｂともに肯定的回答結果だったが,１Ｂ:専門分野の知識で,「あまりそう思わない」が 2 名いた. 家庭科学習の保育・福祉の内容,保育士にとっての専門性などの動機付けは授業時に意識的な働きかけをしたが,個々の学生への問題関心への対応が充分でなかったことが考えられる.

授業時間外学習では,「課題」への取組みは教員養成課程が平均 0.25 時間,総合人間形成課程が平均 0.5 時間（自発は 0.36 時間）で,総合人間形成課程がやや上回っていた.

（２）授業についての独自アンケートの結果

5 段階評定（a : 強くそう思う b : ややそう思う c : どちらとも言えない　d : あまりそう思わない e 全くそう思わない）で回答を求めた. このほか,良かった点と改善すべき点については自由記述で回答を求めた. 第 15 回に実施し,回答者数は 26 名（うち保育士コース 8 名）だった.

１）全体の結果から

1～5 点（a　: 1 点～e : 5 点）で点数化し平均値を求めた. その結果は以下の様である.（　）内は保育士コースの値である.

(1)「出席状況の良好さ」1.62 (1.38)
(2)「シラバスの提示,予定の伝達など」1.35(1.25)
(3)「授業テーマと構成・展開の明確さ」1.65 (1.76)
(4)「教科書使用の適切さ」1.53(1.38)
(5)「進度や難易度の適切さ」1.38(1.13)
(6)「意見の発表や意見交換の機会の保障」1.42(1.13)
(7) 「授業時間外学習課題の適切さ」 1.42(1.13)
(8)「今後意欲をもって学びたい課題の発見」1.85(1.63)

以上のようにいずれも,2.0 未満で肯定的な回答結果であった. 特に「進度や難易度」,「意見交換」,「時間外学習課題」についての肯定度が高い. 質問項目全体の中では,「授業構成」と「今後意欲をもって取り組みたい課題」がやや肯定度が低い結果となった.

保育士コースの学生では,ほぼすべての項目で全体平均よりも値が低く肯定的な回答結果となっていた.

「授業構成」については,本年度ディスカッションの時間をより多く設け,1 つの領域・テーマを予定した時間内で行えなかったり,最終回では複数領域を短時間で行うなど,当初の予定通りにいかなかったことが問題として挙げられる.

・自由記述

「良かった点」は, 全員が記述しており次のように整理される.

＜学習内容について＞

「テーマごとの説明がわかりやすかった」「最新の子育てについての課題を知ることができた」「地域の子育て支援について学べた」「子どもと子どもを取り巻く環境の問題と解決についていろいろな考えを知ることができた」といった意見があった.

今後に向けて生かせる内容であったという意見には,それぞれの専攻の特徴があらわれていた. 保育士コースの学生では,「虐待など興味があり,将来にもいかせるテーマが学べた」などがあり,保育士コース以外の学生では,「自分が子育てするという視点でも意義のある内容だった.」「教師という立場になる前に,子育てや福祉施策について学べてよかった.」など,教師としてや親としての立場を想定しての意見がみられた.

＜学習方法について＞

課題を調べ,グループで発表し,意見交換する時間があったことは多くの学生が良かった点だと述べていた. 例えば,保育制度に関する回では,保育士コース以外の学生は保育所実習の経験のある保育士コースの学生から保育に関する意見を聞くことができたことを評価しており,保育士コースの学生は,日頃他の専修の学生と話す機会があまりないので,他の専門の学生に説明したり,他の意見に触れたことを良かったとしていた.

また,「興味深いビデオや新聞記事」が提示されて身近に新しいテーマを知ることができたとの意見があった.

レジュメと教科書のページの対応が示されたので,復習しやすかったという意見もあった.

「前半のテストがあり,その知識をふまえて,後半の領域についての理解を進められた」ことを良かったとしている学生もいた.

「課題と考えられる点」

＜学習内容について＞

「範囲が広く,1 つのテーマの理解が深まらなかった」(保育士コース) という意見があった. 一方で「専門的でむずかしい」という学生もいた.

＜学習方法について＞

レジュメのわかりにくさについての意見が所属にかかわらず最も多くあった.「レジュメがあとで見返してわかりにくかった.」「レジュメや教科書をもっと使用してほしい」のほか「レジュメをくわしく」,「レジュメをポイント絞ってほしい」といった意見がみられた.

（3）まとめ・次年度に向けて

ディスカッションや発表などの時間の確保と幅広い児童福祉分野の知識・情報量の定着の両立は引き続き課題である. また,今年度保育士コースとそれ以外の学生でのグループワークで相互に学びあうことができたと考えられることから,動機付けも含め専攻を意識した内容構成やグルーピングなどの工夫をさらにすすめたいと考える.

本年度ディスカッションに時間を割くため,レジュメをやや詳細にして進度をあげたいと考えた. そのため,レジュメについての意見が多く見られたのではないかと考える. 授業時間外学習課題,教科書の活用も含め更に検討する必要がある.

３．地域社会を核とした教育と研究のつながりについて

これまでの地域の保育・子育て支援に関する実態調査や参画経験をもとに,学生に松山市や愛媛県における保育・子育て支援の最新の情報を収集する課題を課している. その際には,情報内容だけでなく,情報を必要とする何らかの立場を想定させ（転居し知人のいない親,教師,保育者など）情報入手の過程を意識化し記載させることで,多様な状況の生活者を想定し,情報弱者を生まない福祉のあり方についても考えさせるようにしている. その結果,学生はネット情報が主で,地域の児童館・公民館などの場についてはほとんど知らないことや民間のサイトの信用度の判断の難しさ,将来にわたり情報が必要な場合の留意事項などに気づいている. 今後も地域福祉関連情報を入手する際のポイントを理解できる機会を保障していきたいと考える.